

気づかなかった友達の優しさ

中学校三年

私には、大袈裟な友達がいる。ハイテンションと表した方が良さだろうか。朝であって挨拶をするとき、廊下ですれ違ったとき、部活中、どんなときでも周りの数十倍元気な友達がいるのだ。私は「ああ、これがこの子の性格なのだ」という具合で受け止めていた。

ある朝、私は落ち込んでいた。大した理由はない。友達に嫌われていないだろうか。そんな不安に駆られていた。当時私はすごくネガティブで、友達と少し話せなくなるだけで、嫌われているのではないかと常々心配になっていた。その日もそんなネガティブ思考で落ち込んでいた。その時、彼女がいつものように、元気に背中をたたいて挨拶してくれた。私もいつものように挨拶を返した。他の友達には嫌われていないか不安になるのに、彼女への不安は一ミリもなかった。なぜだろうか。答えは明白だった。その友達の大袈裟な性格だ。いつも周りより明るく楽しそうに接してく

れる彼女には、嫌われている、と感じるよりも、好かれている、と感じる方が自然だった。今まで意識したことなかった、彼女の性格がいつも私の心を支えてくれている大切な存在だと初めて気づいた。

その出来事を踏まえて、他の友達の性格について考えてみると、移動教室のときに一緒に歩いてきてくれる子、一人になったときに隣に来てくれる子、一人ひとりの「性格から出る優しさ」が、知らないうちに私を助けていた。私はその優しさを忘れず、尊重してこうと決めた。

友達の短所を見つけるのは極めて簡単だが、長所を見つけるのはとても難しい。「性格から出る優しさ」も同様に。もしかしたら私達は、その人の長所である優しさを毎日浴びてきたがために、それを当たり前のものだと勘違いしているのではないだろうか。もちろん、「そんな勘違いするものか」と思う人もいるかもしれない。けれどももう一度よく、友達の性格に注目して考えてほしい。あなたには気付かなかった優しさはないだろうか。